

飛騨りんご、出来競う

高山市で「ふじ」品評会

飛騨りんごの主力品種「ふじ」の第19回品評会が1日、高山市冬頭町のJAひだ本店で開かれ、地元農家が丹精込めて育てた自慢の

ランド力を高めようと



りんごの色や形などを審査した品評会＝高山市冬頭町、JAひだ本店

毎年開く。今回は高山、飛騨市の会員から49点が出品され、県飛騨農林事務所の田口和也所長を審査委員長に15人が色や形などを慎重に審査。今回からしま状着色とべた状着色に分けて審査を行った。

審査を終え、田口審査委員長が「春から気温の高い日が続いたが、11月後半になって寒さが戻り、色づきも食味も良くなった」と講評した。出品されたりんごは3日に同市岡本町のバロー高山ショッピングセンターで販売される。(杉原康仁)入賞者は次の皆さん。

▽総合最優秀賞 水口康太郎(高山市久々野町)▽縞状着色部門金賞 水口康太郎(同)▽同銀賞 三輪夕佳(同)▽同銅賞 中野雅夫(同)▽べた状着色部門金賞 中野竜太郎(同)▽同銀賞 宇次原清尚(同)▽同銅賞 山本直樹(同市西之一色町)▽協議会長賞 飛騨高山高校(同市)